



▷27◁

中西印刷出版部松香堂書店

印刷と出版は不即不離。高度な印刷技術なくあつて初めて出版が可能にしては世に出ることがかになつた。中西印刷とそなわれない書物がある。たの出版部門・松香堂書店とえば「西夏文字」の研究はこうした学術出版を印刷で知られる京都大の西田龍雄博士(1928～2012)の著作類。チベットやビルマの文字、各種の発音記号などが混在した原稿を、活版に組

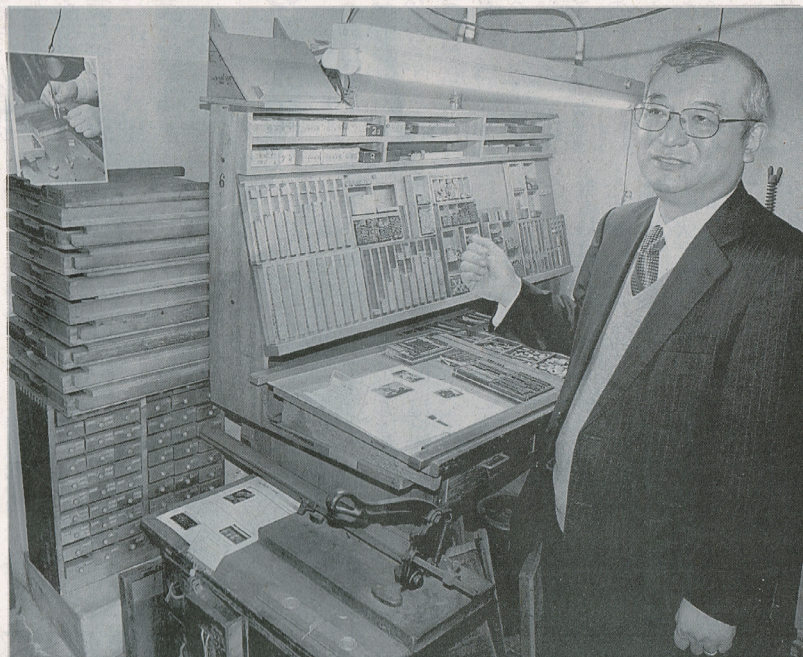
み上げる熟練の職人技があつて初めて出版が可能になつた。中西印刷とそなわれない書物がある。たの出版部門・松香堂書店とえば「西夏文字」の研究はこうした学術出版を印刷で知られる京都大の西田龍雄博士(1928～2012)の著作類。チベットやビルマの文字、各種の発音記号などが混在した原稿を、活版に組

刷の松香堂を創業したのがルーツ。「維新で食いつめた浪人ものを集めて版木を彫らせていた」という伝説が残る老舗である。京都名所図会のようなものも出していたらしいが、京都府庁の御用達になり、役所の公文書の印刷を請け負うようになった。いち早く活版印刷の技術も取り入れた。以後、腕の良い職人を抱えた印刷会社として明治5平成8年に出版部門を併設、屋号の松香堂を復活させた。「私の父(第6代社

長、故・中西亮さん)が学者肌で、出版をやりたいかつたんでしょね。そのころ、西田先生から西夏文字の研究書の出版について相談されたようです」と、同社専務の中西秀彦さん(57)は話す。

井上靖の小説「敦煌」で有名な西夏は11〜12世紀に中国西北に栄えた帝国で、漢字に似た独自の文字を持っていた。その幻の言葉を解読したが、出版に際し活字の壁にぶつかってしまった。「なにせ西夏文字を印刷せんらんのやけど、これがどこにもできひん

学術出版支えた活版



「活版印刷がうちのDNA」という中西秀彦さん。中西印刷には数多くの活字が残されている—京都市上京区の中西印刷で

のや。ある大手の印刷会社でこころみたらしいが、あまりのむつかしさに音をあげた「そこで、世界中の文字をつくって

𐄂𐄃𐄄 (平) kir (上)

𐄅𐄆𐄇 (上) mbif (平)

𐄈𐄉𐄊 (平) s'wi (平) 𐄋𐄌𐄍 (上) s'zi (上)

𐄎𐄏𐄐 (平) 'yir (平) 𐄑𐄒𐄓 (上) 'yir (上)

𐄔𐄕𐄖 (上) lei (上) 𐄗𐄘𐄙 (上) li (上)

西田博士が解読した西夏文字。冠や偏は漢字に似た構造を持つ。

中西印刷出版部松香堂書店
京都市上京区下立売通小川東入ル
☎075・441・3155
中西隆太郎、社員85人(中西印刷)
創業 1865年
現在は約70学会のジャーナルを手がけ、35学会の事務局を務める。

【榊原雅晴】

だがこのころから印刷の世界は活版からオフセット、電算写植へと激変の時代を迎える。「活版

豆知識

活版印刷 ドイツの金属加工職人グーテンベルクが15世紀に発明したとされる。金属の活字を並べた活版を、ブドウ搾り機を基に考案された「四十二行聖書」が有名。貴族や聖職者のものだった書物を広く一般に普及させ、宗教改革などにも影響を与えたといわれる。日本でも明治初め、江戸幕府の通詞だった本木昌造らが導入、急速に広がった。近年は活版を使った大手印刷会社はほとんどないが、美しさにひかれ趣味として楽しむ人も多い。